地域教育情報紙
（令和２年度）
第 ４ 号

風と光と

令和２年１１月２日発行
《担当》　富士･東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
蔦木浩彦 ・ 古屋修宏・飯室　毅

『 風と光と 』は、富士･東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士･東部教育事務所が発行する情報紙です。１年に６回程度の発行を予定しています。

富士･東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、
（1） 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
（2） 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。
を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

「明日の風」　第3回 アスリート実技講習会

「明日の風」アスリートクラブ・北都留地域教育推進連絡協議会主催「明日の風　第３回アスリート実技講習会」が、10月3日（土）に大月市営陸上競技場にて開催され、小・中学生の約７０名が参加しました。市の陸上記録会が今年度から廃止となったこともあり記録会として、トラック競技（100m走、60mハードル走、長距離）、フィールド競技（ジャベボール投げ、幅跳び、高跳び）の競技を行いました。また、今回は新型コロナ感染症対策の徹底のため、事前に県立都留興譲館高校の陸上部（鶴﨑大輔顧問）に協力をいただき準備を行い、当日はスタッフが感染防止を指導する中での実施となりました。

青空のもと、参加した小・中学生は、「久しぶりに飛び跳ねた」「難しいと思ったけどやってみたら楽しかった」「昨年よりも記録が伸びた」と感想を述べていました。自己の記録の結果だけでなく、他人と競い合うことで技術力やメンタル面の向上など、多くのことを学んだ講習会でした。

「第４・５・６回アスリート実技講習会（１・２回は中止）」はそれぞれ 11月28日（土）、2月20日（土）、3月6日（土）を予定しています。多くの方の参加をお待ちしております。

第23回 南都留地域教育フォーラム　書 面 開 催 へ

南都留地域教育推進連絡協議会は、10月29日（木）に富士吉田市民会館ふじさんホールにおいて「令和２年度（第23回）南都留地域教育フォーラム」を開催する予定でした。今年度は新型コロナ感染症の拡大防止の観点から、例年と異なり規模や形式を縮小して、実施する計画を立てていましたが、昨今の情勢から**対面での開催を中止としました。**

アトラクション「光っ子連携コンサート」にビデオ出演していただく予定であった道志村立道志中学校の生徒（伝統芸能「東富士七里太鼓」）、全体会で提案をいただく忍野村立内野保育所（特別支援を必要とする子どもを見守る保育の重要性と保護者支援～専門機関との連携を通し、子どもの育ちを支える～）や富士河口湖町立勝山小学校（火山災害を知り『生きる力』を高めるための火山防災教育～富士山科学研究所との連携を通して～）、また県立吉田高等学校（理数科課題研究への取り組み～地域との連携による学習プロジェクト～）には、事前に資料等を作成していただき、ありがとうございました。

書面開催における資料冊子には、各校・各地区の参考となる報告・助言を掲載します。協力団体各所へ、１１月にお届けしますので、是非一読をお願いします。

明見小学校　NPO 法人「母さんの楽校」「父さんの楽校」との連携

平成 25 年に富士吉田市より受託され小明見地区にある明見湖公園の管理をしている、NPO 法人「母さんの楽校」「父さんの楽校」の協力を得て、富士吉田市立明見小学校（桑原利克校長）では、５年生の「総合的な学習の時間」の中で「ふるさと発見　米作り」活動を行っています。NPO 法人との連携は、今年度で６年目になります。

明見小では「子どもたちが、田植え、草取り、稲刈りを通した米作りに関わり、収穫物を食べることで『食の大切さ』を実感し、地域の方々との連携・交流によって明見地区の農地の現状や人とつながることの喜びなど、ふるさと再発見の機会とすること」を目的としています。今年はコロナ禍により田植えはできませんでしたが、６月には「父さんの楽校」と一緒に「泥がき」を経験しました。9月 30 日には、「父さんの楽校」の方々が、５年生の子どもたち６５名と稲刈りを行い、たわわに実った稲を丁寧に収穫し、稲掛けを体験しました。「稲刈り」「稲結び」「稲掛け」の作業の中で、子どもたちは、稲を結ぶ作業が一番難しいと感想を述べていました。今後来年に向けて「かかし作り」を行うそうです。

協力いただいているNPO 法人「母さんの楽校」「父さんの楽校」は、明見湖公園と周辺の自然や施設を活用し、子どもから高齢者が支え合う豊かな社会づくりと地域の自然・文化の継承に寄与することを目的に活動を続けています。

丹波山村小・中連携　合同運動会、清流祭

９月 13 日に「協力＆笑顔で深めよう 26 人の力」をスローガンに「丹波小中運動会」が開催されました。丹波小学校(樋川和之校長)と丹波中学校(清水浩喜校長)は、９年前から合同で開催しています。

当日は、「新しい生活様式」による感染防止対策の中、小学生児童 11 名、中学生生徒 15 名が一つ一つの種目に真剣に取り組み、絆を深めました。また、丹波山保育所の園児たちも運動会に参加し、お兄さんやお姉さんたちとふれあいました。最後には、PTA・来賓・先生方が、種目「みんな、おちついて！」に参加し、大いに団結を深め合いました。

「ささら獅子舞～運動会特別編（ささら獅子舞保存会の協力）」→

樋川校長は、「『精一杯頑張る力』と『心を一つに合わせて頑張る力』の二つの力を培って、丹波山村の未来を拓こう」と開会式で子どもたちに語りかけていました。

午後には、丹波中学校の体育館で「第 52 回清流祭」が、「Story」をスローガンに開催されました。丹波中生徒会では、「つなぐ」をスローガンに今年度「ひまわり開花プロジェクト」を展開し、村内外の人との関わりを大切に、ひまわりの花びらにメッセージを書いてもらい、集まった 450 枚の花びらで、丹波山村をひまわりでいっぱいにすることで元気にすることができました。

教育委員会の発案で、ケーブルテレビで「運動会・清流祭」が生放送で放映され、会場にくることができなかった方にも、子どもたちの元気な姿が届けられました。

地域の伝統を受け継ぐ　道志中　東富士七里太鼓
あずま ふじ　しちり だいこ

道志村立道志中学校（跡部洋二校長）では、「総合的な学習の時間」を活用し、地域の太鼓保存会の方々の協力を得て、伝統芸能（東富士七里太鼓）の継承活動を全校体制で行い、郷土愛の育成を図っています。今年も、９月12日（土）の学園祭において、各学年が東富士七里太鼓を発表しました。１年生は「富士三段がえし」、２年生は「御社宮司流鏑馬」。３年生は「七里雷太鼓」をそれぞれ演奏し、道志村の伝統を継承しています。

昭和５４年に誕生した「東富士七里太鼓」は、当時の村長の呼びかけに応じて、若者たちが中心となって全国のいくつかの町村を視察し、和太鼓による村おこしに取り組んだのが始まりです。長野県にある「御諏訪太鼓」の道場で、若者たちが泊まり込みの練習を行い、勇壮果敢な新しい太鼓曲を作り上げました。現在では、山梨県内外だけでなく、国際交流（海外公演）も数多く行っています。

心機一転　ことぶき勤学院　活動再開に活気沸く！

令和２年度　ことぶき勤学院　開講日程

	南都留				北都留			
	１年生		２年生		１年生		２年生	
オリエンテーション	8月28日		8月28日		8月21日		8月18日	
	①	9月10日	①	9月8日	①	9月4日	①	9月1日
	②	9月18日	②	9月29日	②	9月18日	②	9月15日
	③	9月25日	③	10月13日	③	10月2日	③	10月6日
	④	10月13日	④	10月20日	④	10月20日	④	10月13日
	⑤	10月20日	⑤	10月21日	⑤	11月6日	⑤	10月26日
	⑥	10月21日	⑥	11月5日	⑥	11月13日	⑥	11月10日
	⑦	11月6日	⑦	11月11日	⑦	11月20日	⑦	11月13日
	⑧	11月20日	⑧	11月17日	⑧	12月4日	⑧	11月17日
	⑨	12月4日	⑨	12月9日	⑨	12月11日	⑨	12月14日
	⑩	12月11日	⑩	12月15日	⑩	12月18日	⑩	12月18日
	⑪	1月15日	⑪	1月20日	⑪	1月15日	⑪	1月18日
	⑫	1月29日	⑫	1月29日	⑫	1月29日	⑫	1月29日
	⑬	2月5日	⑬	2月10日	⑬	2月5日	⑬	2月16日
卒業・修了式				（3月１１日）				

健康寿命日本一として毎回のように名前を連ねる山梨県。その分析は様々になされていますが、「無尽」など地域の人びとと密接につながる文化を持っていること、果樹栽培などの農業分野などにおいて生涯現役の仕事を持っていること、進取の気質にあふれた県民気質を持っていることや図書館利用率が高いことが挙げられます。

With コロナのもと、新たに南都留教室では１０名、北都留教室では１０名の１年生を迎え、２年生２４名（南都留１１名、北都留１３名）の意欲あふれる勤学院生はやる気満々です。

昭和６２年４月に開校したことぶき勤学院も今年の入学生で３４期生となります。「必修講座」と「選択講座」で構成され、２年間で「環境問題」「心身の健康管理」「世界と日本」「地域の災害と防災」「山梨の自然」「山梨の風土」「時事問題」「フィールドワーク」「地域での交流」「若者との交流」「芸術（詩歌）」「娯楽（音楽）」等の各分野を学んでいきます。

早速、２年の北都留教室は、９月１日に英和大学の井上先生による「音楽」講座が、２年の南都留教室は、８日に斉藤先生の「日本の文学風土」講座が行われ、熱心に取り組んでいました。

顔・人・モノ ～富士・東部の地域教育を支援してくださっている方々～

地域教育情報紙「風と光と」の名称は、**「子どもたちの笑顔」**にさわやかな**「風」**と明るい暖かな**「光」**があたるような情報紙を目指す意味が込められています。今回は、南北の教育事務所が統合され、高校の担当として初めて教育事務所に勤務し、郡内地域の小・中・高の連携を推進し、現在の地域教育活動の基盤を作られた地域支援スタッフに当時の思い出話を語っていただき、今後の地域教育の活動の一助としていきたいと考えています。

高等学校に“風穴を”

望月　哲

望月先生は、高校の芸術科（書道）の教員であり、同時にバスケットボールに情熱を捧げています。退職後の現在も、富士北稜高校の女子バスケットボールの外部コーチとして活躍しています。またことぶき勧学院の講師（書道）も務めています。事務所の行事の題字は、望月先生の書です。

平成 13 年南北都留の教育事務所が統合され、「富士・東部教育事務所」が開設されました。私は、初めて“高校畑”の教員として教育事務所で働くことになりました。こういう組織自体それまで知りませんでしたので（高校の教員はほとんど知らなかったと思います）驚きました。

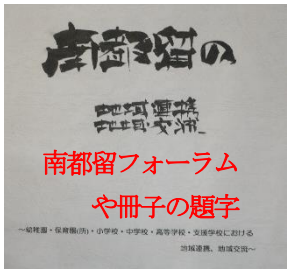
小林雅英野球教室の横断幕

今でこそ小・中・高連携などという言葉が存在していますが、当時の教育の現場では、残念ながら全く考えられませんでした。初めて地域内の幼稚園や保育園・小学校を訪問し、「こんな所に施設があったのか」とこれまでの生活では気づかない驚きがありました。義務教育の南北担当である経験豊富な安藤・浅沼両先生にいろいろ教えを請う中で、**「小中と高校に『風穴』を開けなければいけない！」**これが私のやるべき仕事であると実感しました。

子どもは、各地域の教育機関を通じて育てていくものです。幼保、小、中、高校で継続的な支援、見守り、そして直接的な経験を通して大人へと成長し、将来は地域の一員として貢献していくものです。断絶した時間・空間があったのでは、とても連携などという言葉は成り立ちません。教育は継続していくものです。

伊藤知治剣道教室の横断幕

幸い私は、新採用（吉田高校）以来、バスケットボールの顧問としてチーム強化にあたり、生徒と汗を流してきました。自然と中学校のチームとの交流があり、合同練習や顧問の先生方や保護者の皆さんとバスケットの楽しさや将来の夢などを語り合うことによる、深い人間関係を作りあげた経験がありました。


南都留フォーラム
や冊子の題字

そこで、スポーツを通じた中学生と高校生の交流の場をつくることから始めました。部活動を通して技術を高めあうだけでなく、子ども同士・教員同士の「人の輪」が生まれました。さらに、都留文科大学と桂高校（現：都留興譲館高校）との高大連携も始めてみました。大学生の力を借りることで、この地域の持つ教育力の高さを実感しました。

また、都留地域の子どもたちの「見守り」に向けて、中高連携連絡会議（現在も継続している）を立ち上げ、中学校と高校の先生方が現状と課題を共有し、共に子どもたちの生活指導に取り組める話し合いの場を作り、「人と人とがつながること」を大切にしてきました。

今は当たり前に高校生が中学・小学校に出向いて出前授業などの様々な交流行事を行ったり、キャリア教育の一環での会社訪問や地域の行事（祭・体育祭等）に参加する機会が増えています。将来の「設計図」を早い時点で創り上げていく一助にするためにも、主体的に機会を利用してください。

昨今、地域の人口減少が叫ばれており、この富士・東部地域もコミュニティ存続の「大きな危機」を抱えています。連携・連絡・協力・協働の取り組みを、継続していくことで子どもたちが将来、地域に根づき、自治会活動・防災活動に参加し、次の地域づくりに貢献してほしいと願っています。

※ひばりが丘高校や富士北稜高校の校門は、望月先生の書になります。

5･6･7に負けるな！　道志小・中学校　教育委員会の取組

新型コロナ感染症の拡大防止で、多くの学校が休校や登校自粛となり、授業を進めることができない状況となりました。しかし、道志村は１０年以上前から全家庭を対象とした情報通信網の整備を行ってきました。２年前には光通信ケーブルを更新し、各家庭に「ライフビジョン」を整備することで、公共情報の発信だけでなく、オンライン授業を配信することも可能になり、リモート授業を行いました。

道志村では「まち・ひと・しごと創生」総合戦略の中で、「ICT を活用した教育支援」や「保小中一貫英語教育の実施」を掲げ、ICT を活用した遠隔地交流等を実施する中で過疎地でありながらも、最新の情報に触れ、国際感覚に優れた人材の育成を進めています。そして、「村への誇り」や「育ててくれた感謝」を持った人づくりを目指しています。

教育委員会（佐藤文泰教育長）は、保育所・小学校・中学校と切れ目のない一貫した子育て支援・教育体制の構築と教育委員会が主導する中で、カリキュラム編成にも踏み込んだ村独自のプログラムの提供を推進しています。遠隔地だからこそ、ICT を活用することで世界とつながれるメリットを活かし、小学校や中学校にタブレットやノート PC を数多く配置し、図書館には小・中共用の PC 教室を設置することで、身近に情報ツールがある社会の実現を目指しています。

また、小学校（R 元年）の各教室には電子黒板（ビックパッド）を、中学校（R2 年）には、各教室・理科室に配置し、PC と連動させた授業を展開しています。

外国語教育では、保育所や小学校の授業にも ALT を派遣し、幼少期からの教育プログラムを計画・実行しています。

今後、感染症の拡大や地形上大雨で登校ができない状況になっても、道志村では「ライフビジョン」を活用して、子供たちのみならず村民全体に対して情報の共有・伝達を行う体制が整っています。

5･6･7に負けるな！　ふじざくら支援学校・河口湖北中学校　リモート交流会

北中からの作品交流

県立ふじざくら支援学校（望月公校長）と富士河口湖町立河口湖北中学校（小林淳二校長）は、長年様々な形で学校間交流を行ってきました。今年度は新型コロナの影響で、これまでの対面での交流をリモートに変更して 10 月 15 日(木)に実施しました。

ふじざくら支援学校では、交流及び共同学習を通して同年代の児童生徒と関わりながら、共に学ぶ楽しさや互いに理解し合う豊かな人間性の養成に取り組んでいます。今回は、中学部の生徒１７名が、河口湖北中学校の２年生２４名と Zoom を用いて交流活動を行いました。

事前に「自己紹介カード」を交換し合い、当日は「さいころトーク」を行いました。さいころの出た目に書かれているテーマに、生徒たちは一喜一憂しながら、画面を通しての会話を楽しんでいました。また「絵しりとり」では、即興で互いに「絵」を書き、上手な絵には拍手で称え合いました。最後に北中生徒が、「ソーラン節」を披露してくれました。画面の中の動きに合わせて、支援学校の生徒が手拍子を叩き、一緒に踊る様子が見られました。

新型コロナ感染症の拡大防止のために、対面での交流の機会が激減してしまいましたが、大学の講義や大学入試でも活用されている Zoom（ICT）を用いた活動を、中学時代に経験できたことは、生徒たちにとって「コロナ新時代」を生き抜く第一歩となることでしょう。

リモート交流は、遠隔同士を結びつけるツールとして、富士東部の子どもたちと日本各地や世界の人々との新たな交流を可能にしてくれます。

《　インフォメーション　》

○一人一花フォトライブラリー展　１１月９日～１２月１１日　於：北都留教育会館

○第４回アスリート実技講習会　１１月２８日（土）　　**○小林雅英 野球教室**　１２月１２日（土）

△シオジ森の学校１５周年記念行事→**来年春に延期**　　○11/21 森のお話し会　○12/5 橋村さんの椅子を作ろう

高校の特色のある文化部紹介

吉田高校　囲碁将棋かるた部

同好会からスタートした**かるた**部は、「てて！TV」（YBS）でも取り上げられましたが県内大会３連覇中で、毎年滋賀県の近江八幡宮で行われる全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会に出場しています（今年度は、新型コロナの影響で中止）。

囲碁部は、男子も女子も県内の強豪で、昨年は関東地区高校囲碁選手権に団体としてアベック出場、女子は全国高等学校囲碁選手権大会にも団体出場をはたしています。

藤井聡太２冠の活躍で人気が高まった**将棋**は、県内の壁が厚く、現在は個人戦での決勝トーナメント出場にとどまっています。

「囲碁・将棋・かるた」と種目は異なりますが、初心者に対して先輩や OB が指導したり、パソコンでの対局や地域の方々と交流を行っており、和気あいあいとした雰囲気が感じられました。

県立吉田高校（古屋勇人校長）の「囲碁・将棋・かるた部」は、校舎に隣接する「蒼風館文化ホール」の２階で、平日午後４～７時（土日は OFF）に活動しています。初心者から始めて、全国を目指しましょう！

ひばりが丘高校　うどん部

山梨県の高校の中で、全国的に有名な部活動は、県立ひばりが丘高校（棚橋雅一校長）の「うどん部」とも言われています。Ｈ２２年に商業科の授業（大久保健先生）で吉田うどんを扱う店のサイトを作成したのがきっかけで、Ｈ２６年には「うどん部」がスタートしました。

H22 年から情報発信を開始し、H27 年には「吉田のうどん観光大使」に就任しています。ホームページの製作やイベント出店、商品開発、うどん打ち講習会などを行っており、現在は、毎週日曜日のみの営業ですが、スーパーのセルバ本店（富士吉田市下吉田東）で「うどん店」も営業しています。メニューは、かけうどんなど８種類あります。

Ｈ３０年には、第３回食育活動表彰食育推進ボランティアの部「農林水産大臣賞」を受賞、R 元年の食育白書にも掲載されました。「吉田のうどん」を「もっと多くの人に知ってもらいたい」と現在も奮闘中です！

←商品開発した顎砕き MAX

※商品開発した「顎砕き MAX」「竹炭黒麺」うどん・「ひばりのすりだね」は、「道の駅　富士吉田」で販売中です！

上野原高校　服飾デザイン部

県立上野原高校（小佐野景賀校長）の服飾デザイン部は、同好会としての１年間の活動の後、2002 年に正式に部に昇格し、今年度で創部 19 年となります。

毎年、校内で行われている学園祭（6月）と文化局発表会（11 月）で、ファッションショーを開催しています。ファッションショーを催すためには、毎回ショーのテーマを決め、全校生徒の中からモデルをスカウトして、衣装のデザインを創作して縫製します。

さらに、ショーの音響・照明・映像なども企画製作して、当日の運営も行います。単に服をデザインし、縫製するだけでなく、多くの活動を部員たちで行っています。入部当初は、ミシンをうまく扱えない初心者であっても、一着二着と服作りを経験しながら上達していき、自分がイメージするデザインを形にすることができるようになっていきます。

「東京に近い」という上野原高校の地域性を活かし、その時々の高校生らしい斬新なファッションや音楽等の流行を敏感に取り入れ、クリエイティブな活動をしてきました。若いエネルギーとアイデアを活かせる部活動です。

現在は、３年生から運営を引き継いだ２年生が中心となり、主に１・２年生８名の部員で活動しています。コロナの影響で２回の発表会が中止となり、今後の文化局発表会に向けて製作に励んでいます。これまでの部員の中には、卒業後に服飾系大学や専門学校に進学、アパレル企業で活躍している者もいます。長田部長も将来スタイリストになることを夢見て、活動をしているとのことです。

オリジナリティーあふれる服飾デザイン部は、ものづくりの楽しさを存分に味わい、表現力やコミュニケーション力を身につけることができる魅力多き高校の部活動でした。興味のある中学生は上高の服飾デザイン部に入部してみよう！

2019年（令和元年）11月29日　金曜日

上野原 服飾デザイン部
斬新に、かわいらしく

新聞にも取り上げられる

小菅村小・中連携　合同体育祭、明媚祭

9月 13 日（日）に小菅小学校（伊藤秀一校長）と小菅中学校（梶原正彦校長）で第 36 回合同体育祭と中学校の第 53 回明媚祭が開催されました。例年、春に合同で行われていた体育祭ですが、今年は新型コロナの影響で行うことができませんでした。そこで、今年は初めて中学校のグランドで合同体育祭を行うことになりました。

合同体育祭では、「本気～みんなで勝利をつかみとれ！～」をテーマに、「赤組」と「白組」に分かれて多くの種目に取り組み、児童生徒が協力し、達成感のある今年しかできない思い出深い体育祭となりました。

午後には「絆～みんなの笑顔で３ピース～」をテーマに３つの想いを込めて演劇や合唱に取り組み、今あることへの「感謝」を伝えました。

再開！！　シオジ森の学校

コロナ禍で延期になっていた「シオジ森の学校」が、８月８日（土）の間伐作業を契機に、再開しました。

今回の作業には、「森の学校」の趣旨に賛同していただいた方々が参加し、「小金沢シオジの森」に植林した木々の状況を把握し、食害にあった「シオジの木」の伐採を行いました。例年は、希望の親子の参加もあり、シカやクマの食害を学び、間伐の意味を学ぶプログラムとなる活動ですが、今回はコロナ禍もあり、この後に計画されている「木工教室」の材料採集も兼ねての活動でした。

現在、長沢分岐から大峠にいたる歩道は、一部崩落箇所があって通行は禁止になっています。人がいないためか、道や木々にはクマやシカの痕跡が刻まれ、狸も道路上をゆったりと歩いていました。

１０月３日(土)１８日(日)には、昭和大学の萩原先生による「キシャヤスデ調査会」が行われました。各ポイントでヤスデを採取し、オス・メスの判別と個体数を記録しました。

１０月２４日(土)の「秋のトレッキング」では、雁ヶ腹摺山からシオジの森までを参加者たちと歩きながら、シオジの森の豊かさを感じることができました。苔むした森を見て「トトロの森だ！」とつぶやく参加者もいました。

地域資源を保全しつつ、森に親しめる機会です。森の生活を楽しみたい子どもも大人も参加をお待ちしています。

地元 CATV とのコラボ　ドローンで郷土学習　富士河口湖町立教育センター

「風と光と」第２号で紹介した富士河口湖町立教育センター所属の英語支援スタッフによる英語学習支援番組の制作は「ケーブルテレビ河口湖」と連携して行われています。夏休みに収録した第４・５弾が現在、放映されています。

また、富士河口湖町立教育センターの梶原斉所長が、「ケーブルテレビ河口湖」に対し、富士河口湖町の様子を教材として、画像や映像で活用できないかを打診したところ、ドローン空撮を提案していただきました。空撮は８月に行われました。町内各小学校周辺地域の画像や動画は、編集されDVD化し、来年度改訂の『理科・環境教育副読本～私たちの自然～』の資料や小学３年生の社会科「まちの様子」、総合的な学習の教材として、各学校で活用されます（１校4分×１０校：DVD）。

平面的な地図学習では、イメージしにくい富士河口湖町や学校周辺の様子を、空撮映像を活用していつもと異なる角度から見ることで、新たな発見をする機会にもなるでしょう。

副読本『私たちの自然』の作成には、他にも「富士山科学研究所」「河口湖フィールドセンター」「富士山自然保護センター」「富士山世界遺産センター」や町役場の方々など、多くの方々の協力をいただいています。

是非、家族でも子どもの副教材等を通して、地域の良さや課題について考えてみてください。

【　カラー版は、富士･東部教育事務所のHPからご覧いただけます。
URL：https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html　】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先　富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ　TEL：０５５４－４５－７８４１